

第三十七回

相模原薪能 番組

令和七年八月二十四日(日)
午後一時三十分開演

挨拶

能楽解説 松山隆之

《仕舞》

鶴 亀

土田 英 貴

小田切 亮磨

老 松

梅若長左衛門

角 当 直 隆
松 山 隆 雄

猩 々

松 山 隆 之

鷹 尾 雄 紀

《狂言》

棒 縛 り

次郎冠者

山 本 則 重

主人

山 本 泰 太 郎

太郎冠者

山 本 則 秀

《能》

羽

天女 松 山 隆 雄

衣

漁夫

村 瀬

慧

笛

栗 林 祐 輔

小鼓

田 邊 恭 資

大鼓

佃 良 太 郎

太鼓

林 雄 一 郎

和合之舞

後見

松 山 隆 之

梅若長左衛門

地謡

鷹 尾 雄 紀

角 当 直 隆

小田切 亮磨

角 当 行 雄

土田 英 貴

梅 若 紀 彰

あらすじ

狂言「棒縛り」

家を留守にするたびに、太郎冠者と次郎冠者が酒の盗み飲みをしていると知った主人は、お仕置きに二人を騙して縄に縛り、そのまま出かけて行つてしまいます。縛られても懲りない二人は、酒蔵へ向かい、酒の匂いをかぎ出すと、矢も盾もたまずに酒を飲みたくなつてしまいます。二人は縛られたまま器用に酒を酌み交わし、やがて舞いや謡いの酒宴をはじめます。そこにちょうど帰つて来た主人が、酒盛りの有様を目撃して、問いただします。太郎冠者と次郎冠者はひたすら謝り、帰っていきます。

能「羽衣」

漁師の白龍が、今朝も三保の松原に来ると、松の枝に美しい衣を見つけ、持ち帰ろうとします。

すると、美しい天女が現れ、その衣は天の羽衣だから返してほしいと頼みます。ところが、白龍は家宝どころか国の宝にすると返そうとはしません。

天女は羽衣なしでは天に帰れず、悲しみに沈みます。同情した白龍は、羽衣を返す代わりに天女の舞臺を所望すると、天女は、これを承知し、まずは羽衣を返してほしいと言います。白龍は、天女を疑いますが、嘘はつきませんという天女の言葉を信じ羽衣を返します。

その羽衣を身につけた天女は、のどかな浦の景色を謡い、優美な舞を舞います。

さまざまな舞を披露したのち、天女は地上に宝を降らせますが、時が過ぎ天上に帰る時間がきたので、大空の霞にまぎれて遥か天空へ舞い上がり、月に帰っていくのでした。

小書 和合之舞

「小書」とは能の特殊演出のことをいいます。通常の「羽衣」では、天女が序之舞を舞い収めてから、地謡によつて徐々に天に昇っていきます。これに対し、観世流による小書「和合之舞」では、天女が序之舞を舞いながら月に帰っていきます。

会場

相模女子大学グリーンホール
(相模原市文化会館)

(小田急線「相模大野駅」北口より徒歩約8分)

〒252-0303 相模原市南区相模大野4-4-1

<https://hall-net.or.jp/01greenhall/>



お問合せ

公益財団法人 相模原市民文化財団

☎ 042-749-2207

125th
Anniversary
since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。

35th
Green Hall

15th
ANNIVERSARY

お客様へのお願い

2025年8月現在、相模女子大学グリーンホール隣接地にて建築工事が行われています。騒音等による影響がある可能性がございますので、予めご了承くださいませよう、お願いいたします。

ホームページでも情報を配信しています。

相模原市民文化財団

検索



@Sagami_BUNKA



@910ifmtq

